

卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		筑波大学		採択年度	平成30年度	整理番号	1804
1	プログラム名称	ヒューマニクス学位プログラム					
	英語名称	Ph.D. Program in Humanics					
	ホームページ (URL)	https://www.phd-humanics.tsukuba.ac.jp/					
2	全体責任者 (学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。 氏名（職名） 永田 恭介（筑波大学学長）					
3	プログラム責任者	氏名（職名） 加藤 光保（理事・副学長（教育担当））					
4	プログラムコーディネーター	氏名（職名） 柳沢 正史（国際統合睡眠医科学研究機構 機構長・教授）					
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野				
		関連する領域（1）【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域				
		関連する領域（2）【任意】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域				
		関連する領域（3）【任意】	なし				
6	主要区分	最も関連の深い区分（大区分）	I				
		最も関連の深い区分（中区分）	90	人間医工学およびその関連分野			
		最も関連の深い区分（小区分）	90130	医用システム関連			
		次に関連の深い区分（大区分）【任意】	なし				
		次に関連の深い区分（中区分）【任意】					
		次に関連の深い区分（小区分）【任意】					
7	授与する博士学位分野・名称	博士（医学）、博士（理学）、博士（工学） 付記する名称：ヒューマニクス学位プログラム					
8	学生の所属する専攻等名 （主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。）	筑波大学大学院 人間総合科学研究科（生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻、感性認知脳科学専攻） 令和2年4月1日改組後、人間総合科学学術院 人間総合科学研究群（医学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム） 生命環境科学研究科（生物機能科学専攻、生物科学専攻） 令和2年4月1日改組後、理工情報生命学術院 生命地球科学研究群（生命農学学位プログラム、生物学学位プログラム） システム情報工学研究科（コンピュータサイエンス専攻、知能機能システム専攻） 令和2年4月1日改組後、理工情報生命学術院 システム情報工学研究群（情報理工学位プログラム、知能機能システム学位プログラム） 数理物質科学研究科（化学専攻、物理学専攻、物質・材料工学専攻） 令和2年4月1日改組後、理工情報生命学術院 数理物質科学研究群（化学学位プログラム、物理学学位プログラム、応用理工学学位プログラム）					
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入	10 本プログラムによる学位授与数（年度当たり）の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。					
連合大学院			共同教育課程			13名（年度当たり）	
11 連携先機関名（他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名）							
カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ合衆国）、ボルドー大学（フランス）、国立台湾大学（台湾）、エディンバラ大学（イギリス）、国立研究開発法人物質・材料研究機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、トヨタ自動車（株）、（株）日立製作所、（株）島津製作所、CYBERDYNE（株）							

[公表]

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
1	(プログラム責任者) 加藤 光保	カトウ ミツヤス		筑波大学理事・副学長(教育担当)・大学院人間総合科学研究群・教授	医学博士	病理学	プログラム責任者	1
2	(プログラムコーディネーター) 柳沢 正史	ヤナギザキ マサシ		筑波大学国際睡眠医科学研究機構・機構長／大学院人間総合科学研究群・教授	医学博士	睡眠医科学	プログラムコーディネーター・財務企画委員会委員	3
3	山海 嘉之	サンカイ ヨシユキ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	工学博士	サイバニクス	副プログラムコーディネーター	2
4	鈴木 健嗣	スズキ ケンシ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	知能機械学	教務委員会委員・研究指導	2
5	河本 浩明	カワモト ヒロアキ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・准教授	博士(工学)	知能情報学	プログラム運営担当・学位審査委員会委員・研究指導	1
6	高原 勇	タカハラ イサム		筑波大学未来社会工学開発研究センター・センター長・特命教授／トヨタ自動車(株)・未来開拓室担当部長	博士(社会工学)	次世代モビリティ	プログラム運営担当・研究指導	1
7	秋山 浩	アキヤマ ヒロシ		筑波大学医学医療系・教授／(株)日立製作所・特別共同研究事業担当	博士(理学)	医療情報学	プログラム運営担当・研究指導	1
8	佐藤 孝明	サトウ タカアキ		筑波大学グローバル教育院・教授／(株)島津製作所・フェロー・ライフサイエンス研究所・所長	医学博士	分子腫瘍学	プログラム運営担当・研究指導	1
9	櫻井 武	サクライ タケシ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	睡眠医科学	プログラム運営担当・学位審査委員会委員長・研究指導	1
10	Lazarus, Michael	ラザルス ミハエル		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	Ph. D.	睡眠医科学	広報委員会委員・研究指導	2
11	本城 咲季子	ホンジヨウ サキコ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・助教	博士(生命科学)	睡眠医科学	入試委員会委員・研究指導	10
12	平野 有沙	ヒラノ アリサ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・助教	博士(理学)	睡眠医科学	プログラム運営担当・研究指導	1
13	深水 昭吉	フカミズ アキヨシ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・教授	農学博士	分子生物学	プログラム運営担当・研究指導	1
14	渋谷 彰	シバヤ アキラ		筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授	博士(医学)	免疫学	プログラム運営担当・研究指導	1
15	小林 悟	コハヤシ サトル		筑波大学大学院生命地球科学研究群・教授	理学博士	発生学	プログラム運営担当・研究指導	1
16	野村 暢彦	ノムラ ノブヒコ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・教授	博士(工学)	応用微生物学	プログラム運営担当・研究指導	1
17	柳沢 裕美	ヤナギザキ ヒロミ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	血管生物学	広報委員会委員長・企業連携委員会委員・研究指導	2
18	島田 裕子	シマダ ユウコ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・助教	博士(生命科学)	発生生物学	プログラム運営担当・研究指導	1
19	天笠 俊之	アマガサ トシユキ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	データベース・データ工学	プログラム運営担当・研究指導	1
20	塩川 浩昭	シオカワ ヒロアキ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・准教授	博士(工学)	データ工学	学生支援委員会委員・研究指導	2
21	亀田 能成	カメタ ヨシナリ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	計算メディア	プログラム運営担当・研究指導	1
22	北原 格	キタハラ イタル		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	計算メディア	入試委員会委員・研究指導	2
23	建部 修見	タテベ オサム		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(理学)	計算機科学	プログラム運営担当・研究指導	1
24	広川 貴次	ヒロカワ タカツグ		筑波大学医学医療系・教授／国立研究開発法人産業技術総合研究所	博士(工学)	生命情報工学	プログラム運営担当・研究指導	1

14 プログラム担当者一覧（続き）								
	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
25	櫻井 鉄也	サクライ テツヤ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	数値解析	学位審査委員会委員・研究指導	2
26	今倉 暁	イマクラ アキラ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・准教授	博士(工学)	数値解析・機械学習	企業連携委員会委員・研究指導	2
27	工藤 博幸	クドウ ヒロユキ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	工学博士	医用画像工学	プログラム運営担当・研究指導	1
28	滝沢 穂高	タキザワ ホトタカ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	医用画像工学	財務企画委員会委員長・研究指導	2
29	伊藤 誠	イトウ マコト		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(工学)	認知システム工学	プログラム運営担当・研究指導	1
30	延原 肇	ノブハラ ハジメ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・准教授	博士(工学)	計算知能	プログラム運営担当・研究指導	1
31	森嶋 厚行	モリシマ アツユキ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(工学)	クラウドソーシングシステム	プログラム運営担当・研究指導	1
32	清田 純	セタ ジュン		筑波大学グローバル教育院・教授／国立研究開発法人理化学研究所	博士(医学)	情報科学	プログラム運営担当・研究指導	1
33	舘野 浩章	タテノ ヒロアキ		筑波大学グローバル教育院・教授／国立研究開発法人産業技術総合研究所・上級主任研究員	農学博士	糖鎖工学	プログラム運営担当・研究指導	1
34	高橋 智	タカハシ サトル		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	医学博士	発生工学・分子生物学	学生支援委員会委員・研究指導	2
35	川口 敦史	カワグチ アツシ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	感染生物学	教務委員会委員長・研究指導	2
36	村谷 匡史	ムラタニ マサフミ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	Ph. D	ゲノム生物学	プログラム運営担当・研究指導	1
37	榮 武二	サカエ ケンジ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	工学博士	放射線物理学	プログラム運営担当・研究指導	1
38	入江 賢児	イリエ ケンジ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(理学)	分子細胞生物学	広報委員会委員・研究指導	2
39	大根田 修	オオネタ オサム		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	幹細胞生物学	国際連携委員会委員長・研究指導	2
40	榊 正幸	マサ マサユキ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	神経科学	プログラム運営担当・研究指導	1
41	野口 恵美子	ノグチ エミコ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	遺伝医学	プログラム運営担当・研究指導	1
42	渋谷 和子	シバヤ カズコ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・准教授	博士(医学)	免疫学	FDSD委員会委員長・研究指導	2
43	坂田 麻実子	サカタ マミコ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・准教授	博士(医学)	血液内科学	プログラム運営担当・研究指導	1
44	大鹿 哲郎	オオシカ テツロウ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	医学博士	眼科学	プログラム運営担当・研究指導	1
45	繁森 英幸	シゲモリ ヒデユキ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・教授	理学博士	天然物化学	プログラム運営担当・研究指導	1
46	千葉 智樹	チハ トモキ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・教授	博士(医学)	分子細胞生物学	FDSD委員会委員・研究指導	2
47	石川 香	イシカワ カオリ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・准教授	博士(理学)	細胞生物学	プログラム運営担当・研究指導	1
48	丹羽 隆介	ニワ リュウスケ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・教授	博士(理学)	発生生物学	プログラム運営担当・研究指導	1
49	陳 国平	チン コクハイ		筑波大学大学院数理物質科学研究群・教授(連携大学院)／国立研究開発法人物質・材料研究機構	博士(工学)	物質材料工学	プログラム運営担当・研究指導	1
50	川上 亘作	カワカミ コウサク		筑波大学大学院数理物質科学研究群・教授(連携大学院)／国立研究開発法人物質・材料研究機構	博士(工学)	物質材料工学	プログラム運営担当・研究指導	1

14 プログラム担当者一覧（続き）

	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポート (割合)
51	荏原 充宏	エバハラ ミツヒロ		筑波大学大学院数理工学物質科学研究群・教授(連携大学院)／国立研究開発法人物質・材料研究機構	博士(工学)	物質材料工学	プログラム運営担当・研究指導	1
52	Kann, Michael	カン マイケル		筑波大学グローバル教育院・教授／ボルドー大学・教授	Ph. D.	ウイルス学	海外教育拠点担当・研究指導	1
53	Heldin, Carl-Henrik	ヘルジン カールヘンリック		筑波大学グローバル教育院・教授／ウプサラ大学・教授	Ph. D.	生化学	海外教育拠点担当・研究指導	1
54	Li, Tsai-Kun	リー ツァイカン		筑波大学グローバル教育院・教授／国立台湾大学・教授	Ph. D.	分子細胞生物学	海外教育拠点担当・研究指導	1
55	ten Dijke, Peter	テンダイケ ピーター		筑波大学グローバル教育院・教授／ライデン大学・教授	Ph. D.	腫瘍学	海外教育拠点担当・研究指導	1
56	Kim, Seong-Jin	キム ソンジン		筑波大学グローバル教育院・教授／ソウル大学校・教授	理学博士	腫瘍学	海外教育拠点担当・研究指導	1
57	Kunath, Tilo	クナー ティロ		筑波大学グローバル教育院・教授／エディンバラ大学・チームリーダー	Ph. D.	再生医学	海外教育拠点担当・研究指導	1
58	Chambers, Ian	チャンバース イアン		筑波大学グローバル教育院・教授／エディンバラ大学・教授	Ph. D.	再生医学	海外教育拠点担当・研究指導	1
59	梶 圭介	カシ ケイスケ		筑波大学グローバル教育院・教授／エディンバラ大学・チームリーダー	工学博士	再生医学	海外教育拠点担当・研究指導	1
60	Lander, Arthur D.	ランダー アーサー		筑波大学グローバル教育院・教授／カリフォルニア大学アーバイン校・教授	MD	システムバイオロジー	海外教育拠点担当・研究指導	1
61	横森 馨子	ヨコモリ キョウコ		筑波大学グローバル教育院・教授／カリフォルニア大学アーバイン校・教授	博士(微生物学)	分子生物学	海外教育拠点担当・研究指導	1
62	市橋 史行	イチハシ フミキ		CYBERDYNE(株)・CEO(取締役、情報セキュリティ責任者)	博士(工学)	サイバニクス	プログラム運営担当・研究指導	1
63	大石 陽	オオishi ヨウ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・准教授	博士(医学)	睡眠医科学	学生支援委員会委員・教務委員会委員・学位審査委員会委員・授業担当	2
64	原田 隆平	ハラダ リュウヘイ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・准教授	博士(理学)	生物物理学	プログラム運営担当・研究指導	1
65	櫻井 勝康	サクライ カツヤス		筑波大学国際睡眠医科学研究機構・准教授	博士(医学)	睡眠医科学	プログラム運営担当	2
66	戸田 浩史	トダ ヒロフミ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・助教	博士(理学)	睡眠医科学	プログラム運営担当・授業担当	1
67	讃岐 勝	サスキ マサル		筑波大学大学院人間総合科学研究群・助教	博士(理学)	応用数学、教育工学	教務委員会委員・財務企画委員会委員・広報委員会委員・授業担当	2
68	堀江 和正	ホリエ カズマサ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・助教	博士(工学)	知能情報学	広報委員会委員・授業担当	2
69	北川 博之	キタガワ ヒロユキ		筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構・教授	理学博士	データ工学	プログラム運営担当・授業担当・研究指導	1
70	加藤 薫	カトウ コウル		筑波大学教授(グローバル教育院)／国立研究開発法人産業技術総合研究所・主任研究員	博士(理学)	バイオメディカル	授業担当・研究指導	1
71	VOGT, Kaspar Manuel	ヴォーグト カスパー マヌエル		筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構・准教授	博士(医学)	睡眠医科学	授業担当・研究指導	1
72	阿部 高志	アベ タカシ		筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構・准教授	博士(学術)	睡眠医科学	授業担当・研究指導	1
73	磯辺 智範	イソベ トモリ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	放射線健康リスク科学	授業担当・研究指導	1
74	橋本 幸一	ハシモト コウイチ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	薬学博士	橋渡し臨床研究学	授業担当・研究指導	1

14 プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポート (割合)
75 我妻 ゆき子	ワカヰ ユキコ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	M. D.	臨床疫学	授業担当・研究指導	1
76 小田 竜也	オダ リウヤ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・教授	博士(医学)	消化器外科	授業担当・研究指導	1
77 坂口 昌徳	サカグチ マサノリ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・准教授	博士(医学)	睡眠の記憶における機能	入試委員会委員・授業担当・研究指導	1
78 鶴田 文憲	ツルタ フミノリ		筑波大学大学院生命地球科学研究群・助教	博士(工学)	分子神経生物学	授業担当・研究指導	1
79 小金澤 禎史	コガネヅワ タダシ		筑波大学大学院人間総合科学研究群・助教	博士(神経科学)	神経生理学	授業担当・研究指導	1
80 杳村 憲樹	ツツムラ ノリキ		筑波大学大学院数理物質科学研究群・教授	博士(理学)	創薬科学・有機合成化学	授業担当・研究指導	1
81 尾崎 遼	オザキ ハルカ		筑波大学人工知能科学センター・准教授	博士(科学)	バイオインフォマティクス・情報生命科学	授業担当・研究指導	1
82 保國 恵一	ヤスクニ ケイチ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・助教	博士(情報学)	数値線形代数	学生支援委員会委員・授業担当・研究指導	1
83 井澤 淳	イサワ ジュン		筑波大学大学院システム情報工学研究群・准教授	博士(工学)	計算論的神経科学	授業担当・研究指導	1
84 岩崎 憲治	イワサキ ケンジ		筑波大学大学院数理物質科学研究群・教授	博士(理学)	構造生物化学	授業担当・研究指導	1
85 長崎 幸夫	ナカサキ ユキオ		筑波大学大学院数理物質科学研究群・教授	工学博士	創薬・バイオマテリアルズ	授業担当・研究指導	1
86 黒田 嘉宏	クロダ ヨシヒロ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・教授	博士(情報学)	サイバニクス・生体システム工学	授業担当・研究指導	1
87 釣木澤 朋和	ツルギザワ トモカズ		筑波大学大学院システム情報工学研究群・准教授	博士(工学)	MRI医療物理学	授業担当・研究指導	1
88 斉藤 毅	サイトウ ツヨシ		筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構・准教授	博士(理学)	情報科学・ケミカルバイオロジー	授業担当・研究指導	1
89 佐藤 主税	サトウ チカヲ		筑波大学教授(グローバル教育院) / 国立研究開発法人産業技術総合研究所・主任研究員	理学博士	電子顕微鏡学	授業担当・研究指導	1
90 粕川 雄也	カスカワ ユウヤ		筑波大学教授(グローバル教育院) / 国立研究開発法人理化学研究所・主任研究員(チームリーダー)	Ph. D.	生命科学データ工学	授業担当・研究指導	1
91 山田 洋	ヤマダ ヒロシ		筑波大学医学医療系・准教授	博士(医学)	基盤・社会脳科学	研究指導	1
92 史 蕭逸	シ ショウイ		筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構・助教	博士(医学)	神経科学	授業担当・研究指導	1
93 善甫 啓一	ゼンポ ケイチ		筑波大学システム情報系・准教授	博士(工学)	知覚情報処理	授業担当・研究指導	1
94 大徳 浩照	オホトク ヒロアキ		筑波大学生存ダイナミクス研究センター・講師	博士(学術)	応用分子細胞生物学	研究指導	1
95 渡辺 浩志	ワタナベ ヒロシ		国立陽明交通大学・教授	Ph. D.	量子力学	海外教育拠点担当・研究指導	1

成果の概要【2 ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

(1) 完全ダブルメンター制とリバースメンター制

本プログラムでは、「完全ダブルメンター制とリバースメンター制」による学生指導を実施しており、各分野を牽引し国際的に活躍する学内外の約 100 名のメンター教員による研究指導体制を整えている。本プログラム学生は、生命医科学分野から 1 名、理・工・情報学分野から 1 名、計 2 名のメンター教員を選び、二人のメンター教員が実際に共同研究を行う中で研究指導を受ける。学生は、すでに一つの領域での知識技能を有する多様な背景を持ち合わせており、二人のメンター教員による指導のもとで最先端の専門知識や技術力を培い、融合研究を行う。一方で、両分野を学んだ学生は、それぞれのメンター教員に対し、異分野の内容を逆の立場で教示するリバースメンタリングを行い、共同研究の中心的役割を担っている。学生は、二人のメンター教員のもとで、二つの領域の融合研究指導を受ける。加えて国際ラボローテーションで海外教員のもとで研究指導を受け国際性を身に着ける。そして、例えば、睡眠医学と非線形光工学、整形外科学と人工知能学、感染症学・構造生物学と画像解析学、情報学と計算論的神経科学といったバイディシプリンの専門力を身に着け社会に出ている。このように、本プログラムは、国際的にも通用する高度な「知のプロフェッショナル」を輩出する仕組みとなっている。

(2) e-learning のコンテンツの充実

本プログラムでは、e-learning によるヒューマニクス・プレアドミッションプログラムを進めるため、コロナ禍の影響が生じる前年から自動収録による医学類の全講義を収録した。また、コロナ禍の影響を契機として、e-learning を活用した授業形態の構築を進め、現在は工学系の講義についてもほぼ収録が完了し、e-learning のコンテンツは充実したものとなっている。

② 計画通り進んでいる事項

(1) 優秀な学生の獲得

本プログラムでは、コロナ禍の影響を契機とした入学試験のオンライン化を実施した。不正防止の観点から紙ベースで出題する入試形態を改め、口述試験のみで受験生の能力を評価する仕組みを構築した。まず、口頭で専門分野の基礎知識を問う口述試験では、単に基礎知識を解答させるだけではなく、そのバックグラウンドについても受験生に異分野の教員を含めて議論させることにより、受験生の理解度を様々な角度から評価した。

学生募集の広報活動を積極的に行った結果、平成 31 年度入学は 17 名が出願し 10 名が合格、令和 2 年度入学は 19 名が出願し 14 名が合格、令和 3 年度入学は 20 名が出願し 19 名が合格、令和 4 年度入学は 12 名が出願し 9 名が合格、令和 5 年度入学は 24 名が出願し 18 名(転籍者 1 名を含む)が合格、令和 6 年度入学は 7 名が出願し、6 名が合格した。令和 6 年度入試は、本事業の最終年度ということもあり、一時的に出願者の減少が見られたが、これは本学の他の学位プログラムにおいても補助事業期間の終了前後で出願者が減少しその後回復するという傾向があり、本プログラムにおいても自走化後の学生支援を入試説明会等で丁寧に周知を図ることで、今後出願者数が回復していくことが予測される。令和 6 年度については、出願者こそ少なかったものの、入学者の出身学部比率は、生命医科学と理・工・情報学で 1:1 とバランスの取れた出身分野であり、本プログラムがバイディシプリンの専門力、研究力を目指す分野横断型のプログラムであることの周知が進んでいると言える。

また、本プログラムでは、入学前から大学院へ繋ぐシームレス一貫教育体制を構築する一環として、サマリーサーチプログラムと Early Exposure Program (EEP ; 研究補助員として雇用)を開催し、学部生が研究室を体験する機会を設けた結果、令和 5 年度までに 5 名の参加者が本プログラムを受験し、入学している。

広報活動の内容は、本学及び海外での入試説明会、国際シンポジウムを開催し、ウェブサイト等の拡充を図った。本学国際局との連携を強化し、国際局が主催する全学的なオンライン総合留学フェアへの参加や、海外の重点エリアへの情報発信など SNS 等を活用し行った。また、ポスター、パンフレットを作成し、学内外に発送した。さらに、ウェブサイト、パンフレット、facebook ページ上で、在学生の活動状況を発信した。

(2) Qualifying Examination (QE)

本プログラムでは、未知の問題の本質を突き詰めようとする確固たる意志、生命医科学に加

え、理学、工学、あるいは情報学を横断したバイディシプリンの専門知識、ヒューマニクス研究の基本技術とこの分野の世界の状況を理解し、ヒューマニクス課題に対するリサーチプランを提案できる能力を評価するため、Qualifying Examination (QE) を実施した。合格者は後期相当学生と判定しており、教育研究支援経費の受給対象者となる。

QE 合格者は、令和元年度 5 名（うち 5 名全員が 1 年次に早期で QE 合格）、令和 2 年度 8 名（うち 4 名が 1 年次に早期で QE 合格）、令和 3 年度 11 名（うち 6 名が 1 年次に早期で QE 合格）、令和 4 年度 16 名（うち 4 名が 1 年次に早期で QE 合格）令和 5 年度 10 名（うち 6 名が 1 年次に早期で QE 合格）、の計 50 名である。

（3）企業との連携

本プログラムでは、ヤンセンファーマ株式会社、株式会社 S' UIMIN、筑波大学 F-MIRAI 及び病院（研修医）より社会人学生を受け入れている。平成 31 年 3 月に連携協議会の「企業向け説明会」を開催し、本プログラムとの共同研究やスポンサーシップ制度等について説明を行い、令和元年度以降においても引き続き、企業に対し、説明を行った。令和 4 年度にはプログラムに対して連携協議会に参加した企業 1 社からの寄付、令和 5 年度には企業からの奨学金を提供する仕組み制度の創設（CYBERDYNE 社などからのスカラシップ）によりプログラムの学生に対し支援がなされた。また、令和 5 年度の企業連携委員会において、関連企業に対してより積極的な協力を促すためのアンケートを実施するとともに、社会情勢を踏まえた企業連携に関しても弾力的に工夫していく。

③ 改善が必要な事項

（1）社会人特別選抜

本プログラムでは、ヤンセンファーマ株式会社、株式会社 S' UIMIN、筑波大学 F-MIRAI 及び病院（研修医）より社会人学生を受け入れているが、さらなる企業との連携の強化及び優秀な学生の獲得のため、令和 3 年度入学試験から社会人特別選抜を導入したが、制度を活用した出願者はまだいない。しかしながら、令和 4 年、令和 5 年とも入試説明会には社会人の参加者もあり、今後さらなる企業に向けた周知を進めていく。

④ プログラムとしての今後の見通し

（1）学位論文審査体制、修了時コンピテンス

本プログラムでは、学位審査委員会において、学位の質保証を担保するため、ディプロマポリシーの策定、学位審査の基準等の精査を行い、規則、申し合わせ等を定めた。本プログラム学生の中には早期修了を目指す者もあり、実際に早期修了により課程修了した者もいる。今後も早期修了の基準等に従い、学位審査を進めていく。

また、修了時コンピテンスについて、「バイディシプリンの専門力」、「パラダイムシフトとなりうる課題を自立して発見する目利き力」、「誠実かつ真摯な態度で課題を解決する突破力」及び「解決した成果を社会に発信し、社会貢献に応用できる完結力」と設定した。学生が本プログラムの求める修了時コンピテンスを身につけたことを評価する指標のひとつとして、達成度評価システム Humanics Career Platform (CPx) の運用を開始した。また、基準の客観性を確保するために毎年プログラムの教育会議にて組織的にチェックする。

（2）支援期間終了後のプログラムの完全自走化

本学は、第 4 期の組織整備構想として研究科等連携課程実施基本組織を活用した新たな学術院を設置し、他学術院と連携協力し、それらの教育資源を活用して組織・分野横断的な教育を実施する体制を整備することを計画している。

上記を踏まえ、本プログラムは、新学術院における学際融合教育のモデルケースとして先行し、企業連携による自走化大学院「筑波大学 CYBERDYNE ヒューマニクス学位プログラム（仮称）」の設置や、CYBERDYNE が企画するつくばスーパーシティに建設される施設あるいは殿町の国家戦略特区に建設されたサイバニクス医療イノベーションベース（2023 年 1 月運用開始）への活動拠点の設置など、発展的な企業連携への工夫・連携企業との協働も視野に入れながら自走化に取り組む。また、経済支援については、サイバニクス未来開拓型人材育成プログラムといった企業からのスカラシップも準備され、企業の寄付金の確保も随時進めている。

加えて、本学は 2024 年度の JST-SPRING 事業に採択されたところであり、これを本プログラムの学生に対し優先的に活用することとしている。これにより、フラグシッププログラムとして定着し、新たな産業界との連携の枠組みを構築しつつ、更に発展させる計画である。